

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全日制普通科単位制高校として、全日制普通科単位制高校として、高き志を胸に、変化の激しい社会の中で、自らの未来を切り拓き、個性と能力を發揮できる「天高く翔る」人材の育成をめざす。

(めざす生徒像)

- 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できる生徒
- 2 解決すべき課題にしっかりと取り組むことができる生徒
- 3 主体性をもって多様な人々と協働できる生徒

2 中期的目標

1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。

- (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。
- (2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。
- (3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を構築する。

2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。

- (1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。
- (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。
- (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。

3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する

- (1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。
- (2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。
- (3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。

4 学校力の向上と効率的な学校運営

- (1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。
- (2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。
- (3) PTA・後援会・同窓会(鳳友会)等と連携した教育活動を充実させるとともに、教育活動の理解促進に向けた広報・情報発信に努める。

国公立大学進学者(H29 54名、H30 53名、H31 43名 50名超維持) 難関私立大学合格者(H29 216名、H30 177名、H31 162名 200名程度)

ガイダンス・進路指導に係る生徒の満足度90%以上をめざし維持する。(ガイダンス H29 97%、H30 97%、R01 97% 95%以上維持、進路指導 H29 H30 85%、R01 89% 90%)

授業理解の肯定的評価が80%以上をめざす。(H29 76%、H30 75%、H31 75% 80以上)

生徒の自己管理能力の肯定的評価(H29 76%、H30 72%、H31 77% 80%)の向上及び、生徒・教職員とのギャップを縮める。(H29 35p、H30 27p、H31 30p 20ポイント未満)

生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」が90%をめざす。(生徒:H29 78%、H30 80%、R01 78% 85%超、保護者:H29 88%、H30 89%、H31 88%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>生徒の授業への取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して授業を受けている割には、理解できていない(成果につながっていない)と感じている、自己評価の低い生徒が一定数いる点が課題。 ・講習参加については、3年生では3種類以上受講している者が100名ほど。 ・YouTubeを利用して数学の動画による解説を行っている例(最大視聴279名) ・教員のICT活用は、世代間格差が顕著。講義室・体育館等への整備や教員用タブレット端末の整備及び研修が必要。 <p>学校行事・生徒の自主性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が行事を肯定的にとらえている。今回の結果では、1年生が最も積極的に参加したと自己評価している。上級学年ほど、学習や部活動が忙しいためか? <p>学校満足度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校満足度は高く、教員の捉えと一致。自分の進路に応じた授業を受けることができる単位制システムを一層活かすために、キャリア教育、体験学習やボランティアを充実させる。 ・学習施設・環境が充実していると感じている生徒の満足度が高い。また、広いグラウンドで部活動に取り組めることも要因では。 ・学習や悩みを相談できる先生・環境の存在も大きい。 <p>生徒・保護者・教員の比較から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を楽しんでいるとの捉え方は、3者共通。 ・保護者や教員が感じている以上に、生徒はコース選択や科目選択、勉強と部活動の両立に悩み苦しんでいる。 ・生徒の自己管理能力の捉え方と保護者や教員からみた実態とのずれは大きい。 ・学校が発信している情報は、生徒が仲介していると、保護者に完全には伝わらない。保護者の学校に対するネガティブな捉えの要因。リニューアルした学校HPの活用を含め、きめ細やかな連絡・連携を行うことが課題。 	<p>[第1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果はプラスにもマイナスにも表現できる。むしろ次の目標や取組みにつなげることが大切である。さらに、満足度とともに不満足の原因もできればよい。 ・経営計画中の「単位制の優位性を生かしたガイダンス」とある。ここが学校の最大の特徴なので、中学生にどうわかりやすくPRするか。 ・高校時代は、保護者が子どもとかわる最後の機会なので、学校についてよく理解してもらい、連携して教育活動を進めていくことが大切である。 ・業務や会議の効率化には前捌きが大切。ペーパーレスについては実際のところ難しい。 <p>[第2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの全面改訂と連動して、教員専用ページを設けて資料提供や会議資料の事前閲覧など、一元的な活用ができないか。 ・授業見学から、生徒同士でディスカッションしたり、グループで調べたり発表したりすることに取り組んでいることを評価、少人数授業やキャリア教育の取組み内容を確認。 ・授業見学や授業アンケートに関わって、世代を超えて互いの授業を見学したり、生徒の様子を話したりする機会を設けることが大切。 <p>[第3回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の英語スピーチコンテストを参観、周到な事前指導や生徒たちの熱心な様子が伺え、大きなホールなどで発表する機会があってもよいと思った。 ・学校教育自己診断結果と分析について、テーマを設けて分析している点を評価するとともに、学校ホームページ上での公開や記名のあったご意見への回答について確認。 ・単位制が安定期を越えているとの報告について、本校を志望する中学生の多くは、単位制よりも、部活動ができて進学体制が整っていることに魅力を感じているようである。新教育課程に向けた取組みをはじめとして、新たな魅力の創設も課題。 ・学校経営計画について、令和元年度の取組への評価及び令和2年度の計画について概ね了承。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。</p>	<p>(1) 生徒が主体的に取り組む教育活動を充実させる。</p> <p>(2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を構築する。</p>	<p>総合的な探究の時間、LHR等を充実させ、計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫 学校行事・学年行事等との連動 長期休暇中等の講習を継続・充実 <p>生徒が最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員によるガイダンス(年2回)及び科目選択申請書点検。 専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 <p>委員会・WGでの検討を進め、普通科単位制の特色を生かした新教育課程を作成する。</p> <p>生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報共有を推進する。その際、外部テスト等も活用して効率・効果を高める。</p> <p>e-ポートフォリオ等、生徒の学びを記録・活用するシステムを整備する。</p>	<p>1 「前に踏み出す力」の育成に係る総合評価 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家等による進路講演・説明会、課外の進路イベント等への生徒の参加状況 総合的な探究の時間を核にカリキュラムの検討と案の作成 生徒の学びを記録・活用するシステムの整備 <p>自己診断等の結果 自己診断等の新項目・指標(以下、同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスへの肯定的評価の維持(H30/97%) コース選択や進路情報の提供、将来の生き方や進路について考える機会の提供への肯定的評価 講習への肯定的評価 自分は積極的に学校行事に参加した 生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている。 センター試験受験者の平均点が全科目で全国平均を上回る。 	<p>総合評価() 実施状況</p> <p>総合的な探究の時間や学年HR等での生徒が主体的に取り組む活動に取り組んだ。今後、キャリア教育の内容をさらに充実させるよう検討。()</p> <p>ガイダンス、説明会・講演会は計画通り実施。課外の進路イベント等を随時情報提供し、インターシップ、イングリッシュキャンプ、1・2年生大学訪問等の行事に参加があった。さらに、外部テストの結果等を学年通信等でフィードバックした。()</p> <p>新しい教育課程や総合的な探究の時間のカリキュラムの大枠作成。今後プロジェクトチームを中心に、アイデアの収集・検討からプラン完成へと流れを加速させる必要がある。()</p> <p>生徒へフィードバックできるように外部テストの分析会や外部講師による講演会等を定期的実施。()</p> <p>本校独自の学びの記録システム「e-ポートフォリオ」については計画通りに進行。()</p> <p>自己診断等の結果(生徒の肯定的評価の割合等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスへの評価(97%)() コースや進路選択のための情報提供(84%)() 将来の生き方や進路について考える機会の提供(89%)() 進路に必要な科目選択可能(93%)() 講習参加状況 3年75%、全学年43%から判断() 自分は積極的に学校行事に参加した(84%)() 生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をした(74%)() センター試験は、1科目を除き平均点を上回る。()
<p>2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。</p>	<p>(1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。</p> <p>(2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。</p>	<p>校内教職員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科を超えた授業見学や若手教員の資質向上を図る取組みを推進する。 ICTの活用等による主体的・対話的で深い学びや英語4技能育成のための授業研究を推進する。 <p>授業アンケート、外部テスト等の結果を授業改善に生かす。</p>	<p>2 「考え抜く力」の育成に係る総合評価 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員相互の校内授業見学週間の実施 若手教員研修を核に校内研修・情報交換会を実施、特に進路指導関係 校外の研究・研修会への参加及び情報共有 学校行事・自治会活動への肯定的評価「自分は積極的に学校行事に参加した」 	<p>総合評価()</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員相互の授業見学期間の実施や公開授業を実施。() 主体的・対話的で深い学びへとつながるペア・グループワーク、プレゼン、アプリやユーチューブ等ICTを活用した実践の増加や交流も見られる。さらに、Good Practiceの共有化に努める必要がある。() 教職コンソーシアムや各種研修会の情報提供を実施。部活動指導や業務との両立ができるよう検討必要。() 授業アンケートの自由記述の活用など検討材料の提供を改善する。() 校内研修等の計画的な実施と実効性を高める点に課題。次年度は総合的な探究の時間やICT整備・活用のプロジェクトチームを本格稼働させ、業務の効率化をにらみながら計画的に実施する。() 昨年度から全生徒に導入した外部テストの結果分析の共有や活用についてさらに研究を継続する。() 自分は積極的に学校行事に参加した(84%)(○) 自治会行事の有用感(71%)()

府立鳳高等学校

<p>2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。</p>	<p>(3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。</p>		<p>自己診断等の結果 ・ アンケートの肯定的評価 「授業理解」(H30 75%) 「教材やICT 機器の活用」 「生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」 ・ 外部テストの状況</p>	<p>自己診断等の結果(生徒の肯定的評価の割合等) ・ 授業内容はよく理解できている(75%) ・ 教員のICT 機器の活用(教材研究 83%、授業 61%) 全国調査の教材研究 86%、授業 70%には及ばず。() ・ 生徒の主体的な学習活動の設定(教員 73%)() ・ 外部テスト実施ごとに、教育産業とも連携した検討会や生徒へのフィードバックを実施()</p>
<p>3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。 (2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>日常の指導と強化週間とを効果的に連動させる。 ・ 登下校時の安全指導(特に自転車指導)の実施 ・ 「朝の読書」の時間やSHR の活用 ・ 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 人権 HR、人権映画鑑賞や教職員研修を柱に据えて取り組む。 学校行事、オーストラリア国際交流研修、スピーチコンテストやプレゼンテーション大会等を活かして、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。 社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。 教育相談委員会やスクールカウンセラーとのケース会議を通して、課題を抱える生徒の情報共有、適切な対応を進める。 ・ 教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。 ・ 薬物乱用防止のための取組みを継続する。</p>	<p>3 「自立した個人」の育成に係る総合評価 実施状況 ・ 生活確立週間や課題への即時対応 ・ 国際交流研修、スピーチコンテスト、プレゼンテーション大会等の実施状況 ・ 社会貢献活動の啓発・取組 ・ 教育相談委員会・ケース会議と教職員研修の実施状況。 ・ 薬物乱用防止等喫緊の課題への対応状況 自己診断等の結果 ・ 遅刻登校者数(3,000 件未満)の維持 ・ 生徒の自学自習時間の向上 ・ 部活動加入率(89%)の維持 ・ 「学習と部活動の両立ができている」 ・ 学校行事等への評価 ・ 生徒の「ボランティア等への参加」 ・ 生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップ縮小(H30/72%、ギャップ 27ポイント) ・ 生徒「悩みや相談がしやすい」の向上(H30/40%)</p>	<p>総合評価() については、 ・ 生活確立週間、登下校時の安全指導等を計画通り実施した。 ・ 今年度から、1年生でピブリオバトルを実施した。 ・ 学習習慣の確立に向け、多くの生徒が講習に参加し(前掲)、YouTube やアプリを利用した自作教材の提供も実施した。今後、部活動との両立を図るためにも自学自習環境・教材の研究・開発が必要。() 多文化共生、ピアサポート、SSW を招いての教職員研修など新たな視点を取り入れて実施した。() 各行事を計画通り実施し、国際交流研修の成果は文化祭で発表、コンテストや大会は公開実施した。() 学校周辺の清掃活動や部活動のイベント参加などは継続して実施したが、今後、社会貢献活動等の案内や活動の設定を研究・工夫が必要() 生徒情報の共有しつつ指導に当たった。各事案について適宜、外部機関等と連携して対応を進めたり、喫緊の課題等への啓発活動を行ったりした。今後、教職員間で情報共有し、ノウハウを継承することを継続する。() 自己診断等の結果(生徒の肯定的評価の割合等) ・ 遅刻登校者数 増加 件() ・ 生徒の自学自習時間(前年比) 3 時間以上 -3p、2~3 時間+1p、1~2 時間-1p() ・ 部活動加入率 86.5%() ・ 学習と部活動の両立ができている。(64%)() ・ 自治会行事の有用感(71%) ・ 自分は積極的に学校行事に参加した(84%)() ・ 「ボランティア活動が活発に行われている」教員(35%)() ・ 生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップの縮小:生徒(77%)、ギャップ 30ポイント() ・ 気軽に相談することができる(47%)()</p>

府立鳳高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校力の向上と効率的な学校運営</p>	<p>(1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。</p> <p>(3) PTA・後援会・同窓会(鳳友会)等と連携した教育の充実、並びに生徒募集・広報活動の充実を努める。</p>	<p>学校協議会等の意見・提言を共有し、学校運営の改善に生かす。</p> <p>ICTの整備を進め、緊急連絡方法の充実、会議の効率化やペーパーレス化を進める。</p> <p>生徒の状況や生徒指導・進路指導等のデータベースの整備と活用を進める。</p> <p>効果的な広報活動を推進する。</p> <p>・創立100周年実行委員会発足・参画 ・地域向け「鳳高新聞」の継続発行 ・広報活動の充実、効率化のため、HPのリニューアルと更新、説明会等への参加。</p> <p>月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を行う。</p>	<p>4 学校力の向上に係る総合評価</p> <p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTや各種データベースの整備状況 ・学校説明会実施の工夫、要請のあった説明会への参加状況。 ・地域向け「鳳高新聞」の発行(年3回) ・ノークラブデー等の完全実施。 <p>自己診断等の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のICT機器活用状況(5割以上)(H30/36%) ・学校HPのアクセス状況 ・月80時間以上の時間外労働教職員数及び産業医からの評価 	<p>総合評価()</p> <p>生徒に育成する力を柱とした教育活動・学校運営やスクール・アイデンティティの再確認に生かすことができた。()</p> <p>経営推進費が獲得できず、老朽化した施設・備品の更新に留まり、計画通りに進まなかった。今後、利用可能になった G Suite for Education の活用について研究。()</p> <p>学校独自で進めている学びの記録、校内外のテストのデータ等を、セキュリティーを確保しつつ各種ネットワークシステムの特性を生かして活用できるようにさらに研究を進める必要がある。()</p> <p>学校HPのリニューアルを契機に、単位制システム等のスクール・アイデンティティの再確認を行い、広報に生かした。また、要請への対応以外にも、随時広報活動を実施した。()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ改修に注力し休止した。ホームページの容量や更新作業が改善されたため、今後、リニューアルした学校HPの活用、地域への情報提供方法の検討が必要。() <p>公式戦等を除き実施し、昨年度より学校全体の時間外勤務は減少しているが、さらに業務の点検、縮減への努力が必要。()</p> <p>自己診断等の結果(生徒の肯定的評価の割合等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のICT機器の活用(前掲)全国水準には届かなかった。() ・学校ホームページについて、よく見る(保護者38%)活用されている(教員69%)全面改定のため11月からの公開となり、今後更新に努める。 ・80時間超は12名いるが、ストレスチェックの状況等から産業医からは良い評価を得た。今後も業務の効率化・削減の工夫が必要()
--	---	---	--	---